

総合病院  
**水島協同病院**  
倉敷市水島南春日町1-1  
代表 086-444-3211  
外来 086-444-1222



日本医療機能評価機構  
「信頼の病院」マーク  
ISO9001 認証取得

# 水島協同病院 だより

No.331  
2022. 2月号



水島のホームページもご覧ください

<http://www.mizukyo.jp>

〔病院理念〕 いつでも、だれもが、安心してかかれる医療を追求します。

水島協同病院では無料・低額診療事業を行っています



▲社協の方からの貴重な話に聴き入る職員たち

聴講した職員からは、「コロナ禍の中で、生活困窮者の実情の一端を知ることができた」「社協の多岐にわたる活動がよく理解できた。医療生協の活動ともよく協力してゆける内容と思う」「医療者ももっと地域の生活支援ネットワークに関わることが必要

## もっと地域の中へ、 もっと地域とともに

社会福祉協議会の方を招いて

事務長 亀山 真一



昨年末、かねてより、無料低額診療事業のご案内や子ども食堂の取り組みなどを通じて、生活支援コーディネーターや民生委員の方と接点があった縁で、倉敷市社会福祉協議会水島事務所から主幹の神野さん、主事の阪本さんを病院にお招きし、活動の紹介と当院へ

の期待をお話していただく機会を得ました。倉敷社協の理念は、その事業を通じて「安心して住み続けられるまちづくり」をすすめることであり、倉敷医療生協の理念と相通じるものがあります。ただ、病院職員の多くは、これまで社協の活動について触れる機会

はありませんでした。

要」など、地域に目を向けることの意味を見いだす感想が多く寄せられました。人との繋がり大切さや、繋がる場をつくり、維持することの重要性を再認識する機会となりました。引き続き、協同の名を冠する病院として、もっと地域の中へ、もっと地域とともに歩んでいく姿勢を考え続けていきます。

連載 みずきょうの診察室から

### 自分をさらけ出すと みえてくる世界 「断酒例会のとりくみ」紹介

えんどう けんいちろう  
精神科医師 遠藤 健一郎



従来、アルコール依存症の治療としては、「断酒」、つまりアルコールを断つことしかありませんでした。これに加えて、最近では、軽症の場合には、飲む量を減らすといった「減酒」も行われています。

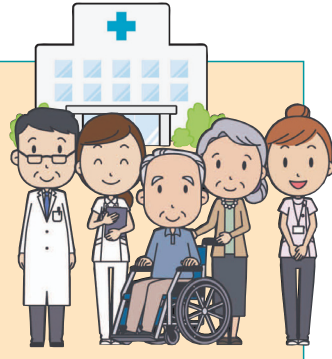
しかし、重い肝障害といった体の病気の「うつ」といった心の病気、人間関係や仕事があまくいかなといった社会での問題が起こっているのであれば、やはり

「断酒」が必要となります。今回は、この「断酒」を行っていくための方法である断酒例会を紹介したいと思います。この断酒例会の大きな特徴は、「言いつばなし、聞きつばなし」ということです。毎回、参加者が順番に、それぞれの酒害に関する自分の体験と反省を述べますが、ほかの人の話は聞かなくていい、そのことについて批評はしないといったことをルールとしています。

当院の退院支援について

### 患者さんに寄り添い 最適の退院を支援

入退院支援室 安藤 裕子



入院された患者さんは治療が終わると退院します。でも病気がよくなっても、元の生活ができるとは限りません。なので退院支援が必要になってきます。入院と同時に退院支援は始まります。入院して患者さんにあいさつに行くと「入院したばかりなのに退院支援なんて」とよくいわれます。

でも入院したら患者さんは自分の病気やこれからおこりうる障害を予測・理解し、退院後も必要な医療や看護を受けながら、どこで療養するか、どのような生活をこれから送るかを自己決定しなければなりません。退院支援担当者に看護師と社会福祉士がいます。病棟によって担当も決まっています。いつもは地域連携・患者サポートセンターにいますので、入院中でも退院後でも、なにかあればご相談ください。